

山形県社会福祉事業団広報誌

# かざぐるま

ひと 未来 輝いて

2009 March

NO. 85



コロニー希望が丘陣が峰焼白幡釜(窯業班)製品

特集

## 特別養護老人ホーム 松濤荘改築オープン

報告

北海道・東北ブロック社会福祉事業団職員研究発表会

全国福祉QC大会

「心の健康を考える」講演会の報告

レキシコン

刑務所出所者等の地域生活定着支援について

新しい職員研修制度の導入について

ひと 未来 輝いて

社会福祉法人山形県社会福祉事業団

2009年4月1日オープン

まつ なみ そう

# 特別養護老人ホーム 松濤荘

山形県で最も歴史のある松濤荘が新たな特別養護老人ホームとして生まれ変わります。

建物面積は現在の約2倍、居室は一人当たり8畳の広さとなります。

ユニット型個室で家庭的雰囲気の中で生活を送れます。



■山形県で最も歴史のある松濤荘が、新たな特別養護老人ホームとして生まれ変わります。

■建物面積は現在の約2倍、居室は一人当たり8畳の広さとなりました。

◎1階は、定員24人(うち短期入所4人)「従来型多床室」で2人室。12人毎の生活空間

◎2階3階は、定員20人×4か所「ユニット型個室」で、10人ごとの生活空間

◎地上3階建て鉄筋コンクリート造り  
建物総面積5,753.89㎡ 敷地面積18,718.00㎡

■省エネや快適な生活環境を目指した設備を選定しました。

◎オール電化、電化厨房、エコキュート、省エネ型冷暖房、直接噴霧型加湿器、オゾン脱臭装置、寝台用エレベーター2基、防災消臭抗菌カーテン、電動3モーター低床型ベッド、機械浴槽3台(各階)、小型介護浴槽5台など

■これまで以上にお年寄りに寄り添うケアを目指し、介護職員を大幅に増員しました。

### ◎ユニットケアとは

入居される方が、10名程度の家庭的雰囲気のなか、たとえ重度の障がいや認知症のある高齢者であっても、個性や生活のリズムに沿って、できるだけその人その人の個別の暮らしを支援していこうというものです。



2階



食堂・共同生活室イメージ図

3階



新しい松濤荘の概要

■事業内容  
 特別養護老人ホーム松濤荘 定員100人  
 従来型多床室 20人  
 ユニット型個室 80人  
 松濤荘短期入所生活介護事業所 定員4人  
 併設短期入所生活介護事業所(1階多床室棟内)  
 介護予防短期入所生活介護事業所  
 松濤荘居宅介護支援事業所  
 介護予防居宅介護支援事業所

■敷地建物面積  
 ・敷地 18,718.00㎡  
 ・建物 鉄筋コンクリート造3階建  
 総面積 5,753.89㎡  
 1階面積 1,996.56㎡  
 2階面積 1,984.70㎡  
 3階面積 1,772.63㎡

・各階各部屋面積(内法)等  
 1階従来型多床室棟(12床)×2ユニット  
 居室2人部屋12(1人あたり) 13.52～13.90㎡  
 静養室2 12.65㎡×2部屋  
 食堂2 28.65㎡×2か所  
 交流ホール機能訓練室1 30.77㎡  
 機械浴室1、個室1、キッチン1、サービスステーション1、トイレ7など

1階管理棟  
 事務室1、相談室2、地域交流室(116.12㎡)1、付添者用宿泊室1、医務室1、洗濯仕分け室1、機械室、車庫、収納倉庫など

2階ユニット型個室棟(10床)×4  
 居室40 13.53～14.40㎡  
 共同生活室4(1か所あたり) 28.65㎡  
 交流ホール機能訓練室1 30.77㎡  
 機械浴室1、個室2、キッチン4、トイレ14、理美容室1  
 職員玄関1、サービスステーション2など

2階厨房棟  
 調理室、配膳室、下処理室、洗浄室、事務室など

3階ユニット型個室棟(10床)×4  
 居室40 13.53～14.40㎡  
 共同生活室4(1か所あたり) 28.65㎡  
 交流ホール機能訓練室1 30.77㎡  
 機械浴室1、個室2、サービスステーション2、キッチン4、トイレ14、避難用滑り台など

■設備機器  
 寝台用エレベーター2基  
 特殊浴槽3台、個浴槽(ADL浴槽)5台  
 全ベッド低床型3モーター電動ベッド  
 オール電化、電化厨房、冷暖房エアコン(省エネルギー型)、直接噴霧型加湿システム  
 エコキュート給湯システム(レジネオラ対策)  
 PHS連携ナースコールシステム、無線LANシステム  
 機能カーテン(防災、抗菌、消臭、ウォッシュャブル)セラピーマスター(リハビリ機器)など

■職員体制  
 荘長1、事務長1、事務員1、管理員1、警備員2  
 管理栄養士1、栄養士1、調理師等7  
 看護師等4、看護補助1、理学療法士1、生活相談員2、援助員61.375(常勤換算)、居宅介護支援2  
 障害者雇用2 計88、375人(常勤換算含む)

■職員資格等(重複あり)  
 社会福祉士2人、精神保健福祉士1人、介護支援専門員15人  
 介護福祉士27人、訪問介護員2級24人、社会福祉主事14人  
 認知症ケア専門士1人、ユニットリーダー研修修了2人  
 介護指導者研修修了者2人、管理栄養士1人、調理師5人  
 看護師3人、准看護師1人、理学療法士1人

■建設工事業者  
 ・設計監理 株式会社 伊藤設計  
 ・建築工事 林建設工業株式会社  
 ・電気設備工事 荘内配電管工株式会社  
 ・機械設備工事 環清工業株式会社

■事業費総工費  
 ・建築工事 1,245,950千円  
 ・電気設備工事 717,749千円  
 ・機械設備工事 174,510千円  
 ・設計監理費 192,885千円  
 ・備品費 50,504千円  
 ・土地取得費 65,587千円  
 ・自己資金 44,715千円

■資金計画  
 ・医療福祉機構借入 500,000千円  
 ・山形県補助金 216,000千円  
 ・遊佐町補助金 54,000千円  
 ・市中銀行借入金 246,000千円  
 ・自己資金 229,950千円

西に日本海  
 東に鳥海山

【交通アクセス】  
 ○吹浦駅から3.5km タクシー10分  
 ○遊佐駅から5.7km タクシー15分  
 ○高速酒田みなとインターから7号線を北上し車で15分

■介護老人福祉施設  
 特別養護老人ホーム松濤荘 0673200226

■短期入所生活介護事業所  
 松濤荘短期入所生活介護事業所 0673200218

■居宅介護支援事業所  
 松濤荘居宅介護支援事業所 0673200200

特別養護老人ホーム **松濤荘**  
 〒999-8531 山形県飽海郡遊佐町菅野南山7番地1  
 TEL.0234-76-2103 FAX.0234-76-2147  
 E-mail: matunami@wonder.ocn.ne.jp 法人ホームページ: http://www.yjsj.or.jp/

# 北海道・東北ブロック 社会福祉事業団職員研究発表会

地域福祉支援センター 看護師 石井 由紀代

昨年12月1日、2日に青森市で開催された「北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会 職員研修」に参加させていただきました。8事業団から様々な職種32名の出席がありました。

㈱エイデル研究所福祉事業部 主任インストラクターの村松博氏による講義は、「福祉職場における業務改善～その目的と進め方」をテーマにした内容でした。毎年目まぐるしく変化する法や制度ですが、実際の現場では、業務の進め方を変えようという発想はなかなかたれません。変化する環境の中で問題点を改めることが、効率的に業務をこなすことに繋がる、そこで生み出した時間を利用者のために使っていくという内容でした。

グループワークでは、業務改善シートに各自書き込みながら自分の職場の問題点を解決していく、更にグループ毎に改善策を検討しました。普段は同職種間で検討し解決することが多い私には、グループ内の様々な職種の方から改善に向けての意見をいただけることは、とても新鮮でした。

講義の後、4県の研究発表がありました。岩手県「た

ばしね学園における自閉症療育の取り組み」、秋田県「発達障害を持つ利用者への援助のあり方」、青森県「しらかば寮における介護予防について」の研究発表があり、山形県からは「地域で生活する方々の医療・健康管理の支援経過と課題について」という内容で発表させていただきました。

山形県のように多数の施設や共同生活事業所を運営し支援している事業団はなく、「地域生活に移行する際、利用者本人よりも家族の不安が大きい場合が多いがどのように説得しているのか。」「入居者の障がい程度はどれぐらいか。」「実際どのように日常生活を支援しているのか。」等の質問が情報交換会の席でも寄せられました。

他県には児童の施設を持つところが多く、山形県にはない保育士・児童指導員という職種の方々から支援の様子や問題点、家族との関わりについて伺うことができたのは、私にとっては大変興味深い内容でした。

この度の研修に参加させていただいたこと、研究発表の場を与えていただいたことに感謝いたします。



## はばたき賞受賞 全国福祉QC大会

～知的障がい者更生施設 吹浦荘～

12月3、4日に東京新霞ヶ関ビルの全社協を会場として開催された、第19回福祉QC全国発表大会に参加しました。発表施設は全国から45の施設、参加者は見学者も含め総勢200人程でした。吹浦荘ではQC活動を10年程前から取り組んでいますが、今回「元気の源は朝食から」というテーマで、初めて全国大会に出場して「はばたき賞」を頂きました。主催者の講評にもありましたが、福祉QCも年々レベルアップしているそうです。とても見やすい、わかりやすいプレゼンテーションや、テーマ選定の仕方、徹底した現状把握、要因解析は参考になる発表が多くありました。

吹浦荘では、一昨年に「元気の源は朝食から」というテーマでQC活動に取り組みました。健康の基本となる食事を利用

者にきちんと食べて頂く事を目標にして、朝食を欠食しがちな利用者をピックアップして、データを取り対策を講じました。献立の検討、言葉掛けの仕方の統一、適度な運動の取り入れ、食堂環境の改善を施し、全利用者が朝食を時間内できちんと食べて頂けるように目指しました。効果が表れた利用者も多くあり、朝食時の言葉の掛け方として個別にマニュアル化されています。職員が代わった時にも、標準化された支援が出来るようになりました。一年経った現在でも、継続的な支援もあり朝食の欠食者は微少に止まっています。

最優秀賞は、福島県郡山市の救護施設の「リザーブ食を見直そう」というテーマでした。伸びていない、あつあつのラーメンを提供しようというシンプルなテーマでしたが、現状把握、要因解析を深く追求して正確なデータを取り、職人指導の対策を講じたことにより満足される麺を提供出来るようになったという発表でした。利用者満足度の向上が目に見えてわかり、他の施設でもマニュアル化して実施出来る内容のものでした。吹浦荘でも献立が「ラーメン」の時はぜひ参考にしたいと思います。

三人共に初めての全国大会参加であり、不安や緊張でいっぱいでしたが、とても楽しく勉強させて頂きました。この経験を、これからの業務に役立てていきます。ありがとうございました。



## 「心の健康を考える」講演会の報告

サポートセンターういんず所長 高橋 宏

標記の講演会が12月3日河北町谷地のどんがホールにて行われました。

サポートセンターういんずは障害者自立支援法に基づき、北・西村山地域の5市・5町の委託による地域活動支援センター事業と相談支援事業を行っていますが、その中で精神保健福祉の普及啓発活動の一つとしてこの講演会が実施されました。

今回で3回目になりますが、2年前の第1回は、経済学博士の相澤与一先生を招いて、「精神障がい者を地域の皆で支えていく為に」と題し、障がい者に限らず心の病を持つ人には地域全体の支えが必要だとの講演でした。

昨年第2回目は、臨床心理士の高塚雄介先生による、最近増え続けている「ひきこもり」についての講演を頂き、ひきこもりの要因や様態を説明していただきました。

そして今回は、精神科の五十嵐義雄ドクターを招いて、精神科の病や障がいが増えている事を指摘し、地域の皆で支えあう事の大切さをお話していただきました。特に、精神科の病気は一般科の多くの病気と同じく誰でもかかる可能性があり、その時に自分はどう感じてどう対応するか、そして周囲の人が同じ状態になったときにどう分かって支えてあげられるかを、ご自分の経験や身近な事例をあげ、分かりやすく話していただきました。

参加の呼びかけについては5市5町の広報にも載せていただくなどして予想を超える125名の参加者を得る事が出来、また質疑の時間も設けましたが、時間が足りなく打ち切らなければならないほどの反響がありました。

今回は福祉や医療の関係者よりも一般の方々の参加者が多く、先生のつぼをつかんだ話し振りはさることながら、心の病に対する感心が高くなっている事を実感いたしました。

また、参加された方の中で「ういんず」を知らなかったと言う人もいて、こうした事業所も認知していただく良い機会だと感じました。



## レキシコン

【レキシコン】  
lexicon: ギリシャ語・ラテン語・ヘブライ語の辞典。

### 刑務所出所者等の地域生活定着支援について

国は、平成21年度予算に、福祉を必要とする刑務所出所者等の地域生活定着を支援するため「地域生活定着支援センター」（仮称）の設置について新規補助事業として予算を計上している。初年度は7月実施とし、都道府県に各1か所、全47か所の設置を見込んでいる。

刑務所出所者等のうち、知的障がいがある者等について、福祉的支援が必要であるにも関わらず、適切な支援が受けられないため、出所後の行き場が定まらない者も多い。

また、自立した生活が困難であるため、早期に再犯を繰り返すリスクも高く、従来から何らかの対策や支援が必要とされていた。

このような状況から、司法と福祉が連携し、刑務所入所中から居住地での福祉サービスに繋げるための準備や調整等を行い、出所後の社会生活への移行を円滑にすることが求められている。

具体的には、保護観察所と連携して、出所後に必要な福祉サービス等のニーズ把握、帰住予定地のセンターとの事

前調整や、出所予定者の福祉サービス利用の受入先調整等を行うものとしている。

平成18年の法務省特別調査では、親族等の受入先がない満期釈放者は約7,200人、うち、障がい等を抱え自立が困難な者は約1,000人とされている。これまで、モデル事業として実施され、近く支援のためのガイドライン等も出される予定である。

国は、センター設置以外でも、法務省関係予算では刑務所に社会福祉士等を配置することや、報酬改正面では、刑務所出所後の利用者の受入体制の整備や関係機関との連携等を行った場合報酬評価が位置づけられており、制度構築が一気に進められている。

一方、福祉施設や障害福祉サービス事業所での受入体制はどうであろうか。実際のところ、利用者の実態やニーズも多様であり、支援プログラムも不十分なことから、個別事例検討も含め、今後、関係機関のネットワークの中で、早急に検討が必要である。

# 新しい職員研修制度の導入について

当法人では、現在職員の人材育成の観点から、目標管理型の研修制度の導入に向けた準備を進めています。

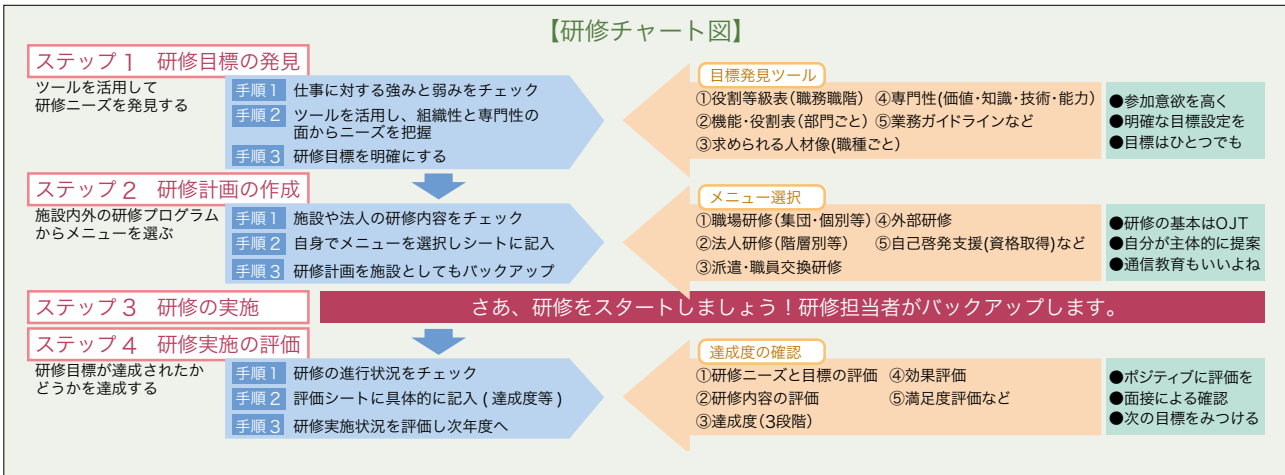
この目標管理型の研修は、一言でいうと、これまでの与えられる研修ではなく、自らが主体的に取り組んでいく研修とすることができます。例えば、誰もが仕事に対して強い部分と弱い部分を持っています。この強みと弱みを明確にし、自分で目標を立てながら強い部分は伸ばし、弱い部分を克服していく研修が目標管理型研修ということになります。そして、その目標を組織としても把握し、研修担当者を配置するなどして周囲でサポートしていく体制をとることを考えています。

この目標管理型の研修を導入する背景として、今後10年の間に200人以上もの大量の退職者が出ることが大きな理由のひとつになっています。それぞれの職務や職階に応じた人材

育成を今からしていかなければ、近い将来、組織そのものの運営が困難になる可能性があります。また、職員の意識改革・向上も重要なポイントとなっています。職員の専門性というものは、「確かな力量」、「豊かな思考」、「強い情熱」の柱から成り立っており、この3つの柱のバランスの中から、「チャレンジ」「イノベーション」「プロフェッショナル」という思考が形成されるものと考えています。そして、これらの思考と実践の積み重ねから、職員の力量は高められ、まさに福祉新時代における人材育成に結び付いていくのではないのでしょうか。そして、その起点になるものがこの研修であると考えています。

新しい職員研修制度の導入は、平成21年度に複数施設で試行を行い、平成22年度からの本格導入を目指しています。

【研修チャート図】



## 人生おもてなし

四季の風情がおりなす「あつみ温泉」……。

春はふと頭をよぎるのはいにしへの絵巻物語、夏は洋上遥かに思いを寄せ、秋はつるべ落としに人生を重ね、冬は荒れ狂う日本海に我が身を漂わせ、彷徨の終着駅は寿海荘。尋ね人が一瞬(ひととき)でも「ほっと」出来るようなおもてなしをいつも心掛けています。

「ああ・・短き我が青春、熱き砂にただ手をやれば  
思い出古にして再び帰らず ああ・・」

各種イベントを行っております。お電話にてお問い合わせ下さい。

ホームページにて「寿海荘だより」を発信中

寿海荘ホームページアドレス <http://www.jyukaiso.jp/>  
ご意見・苦情はメール：info@jyukaiso.jpまでお願い致します。



平成21年度寿海荘主催 事業計画

月 日	事業名	講師名
4月23日	健康相談及び体操	吹浦荘看護師 朝井ちか子
5月28日	第1回カラオケの夕べ	事業団OB 高橋宣則
6月11日	音楽療法実践講座	和光園 小松 睦
6月25日	第1回舞踊・歌謡上演会	ボランティアサークルなごみ
7月10日	リハビリ講座	松濤荘理学療法士 後藤里史
7月23日	栄養講座	鶴峰園管理栄養士 菅原宏枝
8月20日	介護教室	温寿荘 介護福祉士
9月10日	第2回舞踊・歌謡上演会	浜海海 舞踊友好会
9月24日	健康運動実践講座	松濤荘主任援助員 富樫伸

山形県福祉休養ホーム **寿海荘**  
あつみ温泉

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里88-1

TEL : 0235-43-4173